CASBEE®-建築(新築)　評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版　使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要

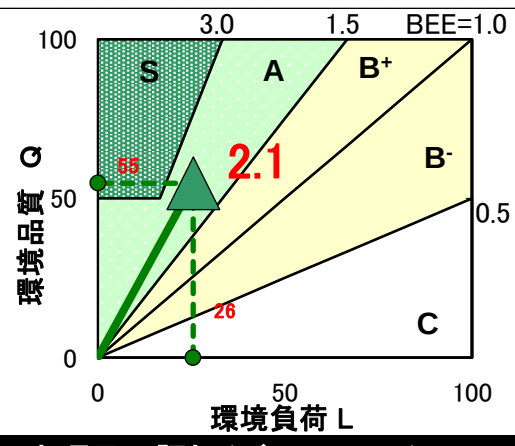
建物名称	(仮称)DPL久喜宮代新築工事	階数	地上4F
建設地	埼玉県南埼玉郡宮代町	構造	RC造
用途地域	市街化区域、準防火地域、工業地域	平均居住人員	1,000 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	事務所,学校,工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年11月　予定	評価の実施日	2021年6月16日
敷地面積	71,744 ㎡	作成者	三好　星空
建築面積	42,656 ㎡	確認日	2021年6月17日
延床面積	161,732 ㎡	確認者	定森　淳一

1-2 外観

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート

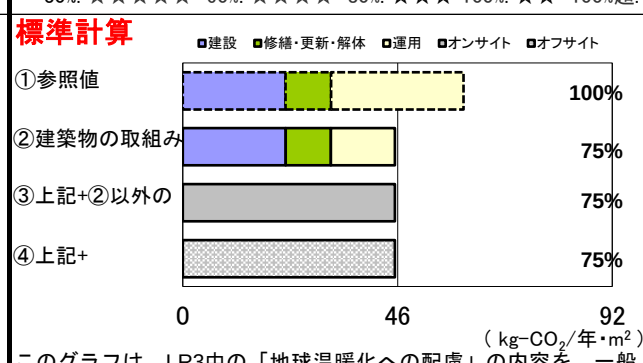
BEE =2.1

S: ★★★★★　A: ★★★★　B+: ★★★　B-: ★★　C: ★



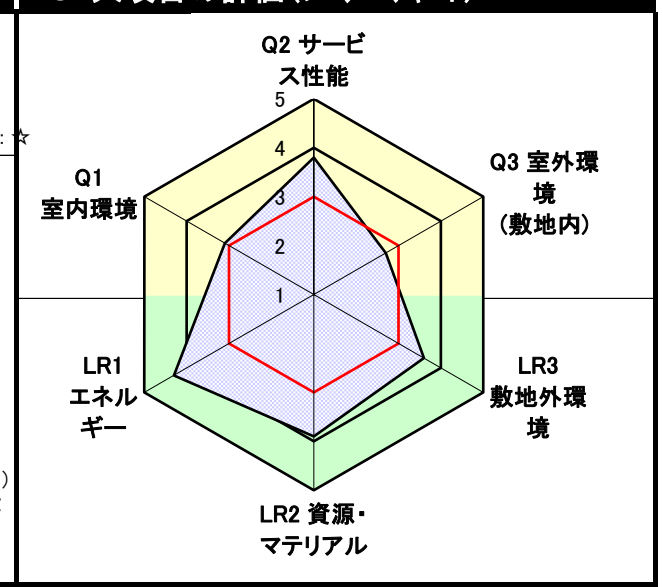
2-2 ライフサイクルCO2(温暖化影響チャート)

30%: ☆☆☆☆☆　60%: ☆☆☆☆　80%: ☆☆☆　100%: ☆☆　100%超: ☆



このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO2 排出量の目安で示したものです

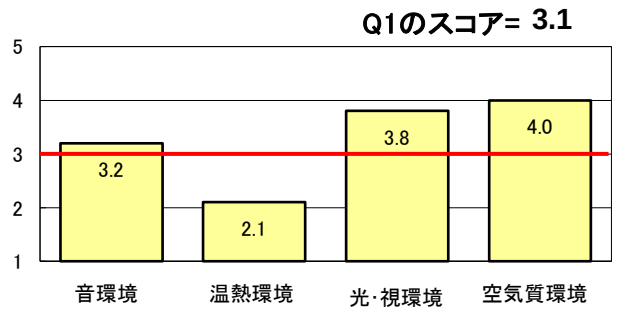
2-3 大項目の評価(レーダーチャート)



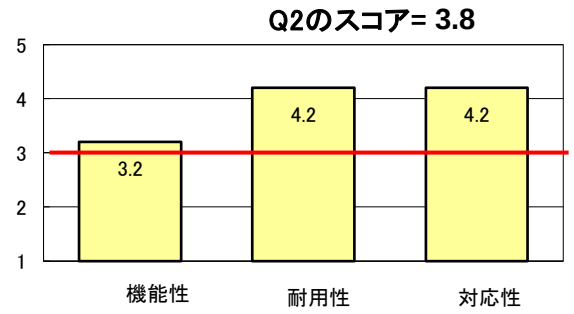
2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質　　Q のスコア= 3.1

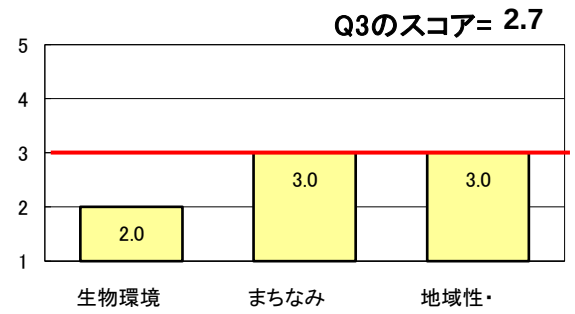
Q1 室内環境　Q1のスコア= 3.1



Q2 サービス性能　Q2のスコア= 3.8

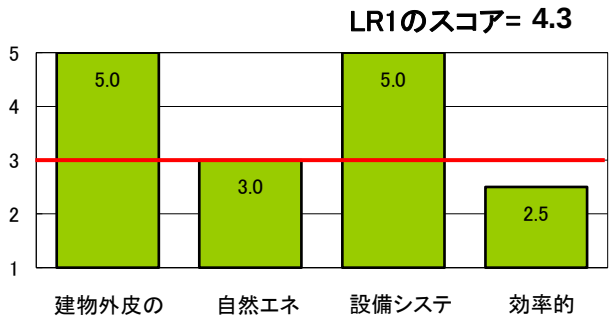


Q3 室外環境(敷地内)　Q3のスコア= 2.7

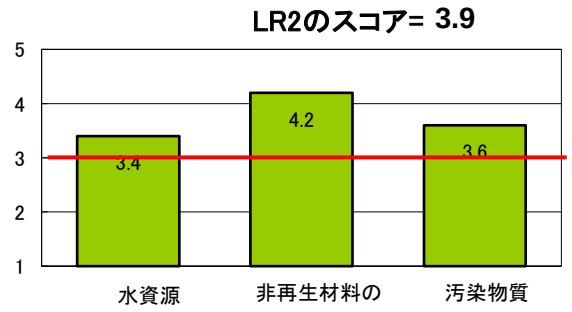


LR 環境負荷低減性　　LR のスコア= 3.9

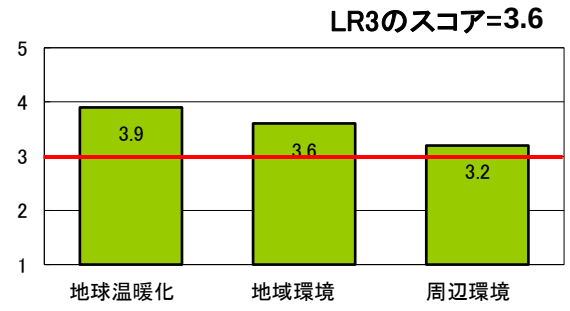
LR1 エネルギー　LR1のスコア= 4.3



LR2 資源・マテリアル　LR2のスコア= 3.9



LR3 敷地外環境　LR3のスコア=3.6



3 設計上の配慮事項

総合

・空間の全体計画や耐用性の高い建材の採用によりサービス性能に配慮・リサイクル材の使用や部材再利用可能性向上への取り組み

その他

Q1 室内環境

・吸音性のある素材を使用し、音環境に配慮・室に適した建具の設置により光環境に配慮・化学汚染物質による空気質汚染を回避する対策

Q2 サービス性能

・天井高さの確保や休息室の計画により快適性に配慮・外壁仕上や給配管、ダクトに長寿命材を採用・階高や空間の形状にゆとりを持たせ、将来の用途変更可能な計画

Q3 室外環境(敷地内)

・低木等の植栽計画により風の通り道の確保、地表面温度を抑制

LR1 エネルギー

・高効率設備の採用により、省エネルギー性に配慮

LR2 資源・マテリアル

・節水型水栓を採用し、節水に配慮・ｸﾞﾘｰﾝ購入法における特定調達品目を採用し、非再生性資源の利用削減に配慮・解体時の分別が容易な工法や再利用可能な部材を採用し部材の再利用可能性向上に配慮

LR3 敷地外環境

・燃焼機器の使用がなく、大気汚染物質を全く発生しない・駐輪駐車荷捌き用車両の駐車スペースの確保や複数の出入口を設置し周辺の道路環境へ配慮

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
■「ライフサイクルCO_2」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO_2排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版
(仮称)DPL久喜宮代新築工事

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版
欄に数値またはコメントを記入　■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

スコアシート　実施設計段階

配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質						3.1
Q1 室内環境			0.31		-	3.1
1 音環境		3.2	0.15	-	-	3.2
1.1 室内騒音レベル		3.0	0.40	-	-	
1.2 遮音		3.0	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能		3.0	0.60	-	-	
2 界壁遮音性能		3.0	0.40	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	-	-	
1.3 吸音	床、天井の二面に吸音材を使用している	4.0	0.20	-	-	
2 温熱環境		2.1	0.35	-	-	2.1
2.1 室温制御		3.2	0.50	-	-	
1 室温		3.0	0.38	-	-	
2 外皮性能	窓SC:0.285、窓U:3.63W/(㎡K)/外壁U:2.53W/(㎡K)	4.0	0.25	-	-	
3 ゾーン別制御性		3.0	0.37	-	-	
2.2 湿度制御		1.0	0.20	-	-	
2.3 空調方式		1.0	0.30	-	-	
3 光・視環境		3.8	0.25	-	-	3.8
3.1 昼光利用		3.6	0.30	-	-	
1 昼光率	2.0%≦事務所昼光率＜2.5%	4.0	0.60	-	-	
2 方位別開口		-	-	-	-	
3 昼光利用設備		3.0	0.40	-	-	
3.2 グレア対策		3.0	0.30	-	-	
1 昼光制御		3.0	1.00	-	-	
3.3 照度	500lx≦照度＜1000lx	4.0	0.15	-	-	
3.4 照明制御	照度ｾﾝｻｰ(ﾀｲﾑｽｹｼﾞｭｰﾙ機能付き)	5.0	0.25	-	-	
4 空気質環境		4.0	0.25	-	-	4.0
4.1 発生源対策		4.0	0.50	-	-	
1 化学汚染物質	内装材のほぼ全面的にF☆☆☆☆を採用	4.0	1.00	-	-	
4.2 換気		4.0	0.30	-	-	
1 換気量	必要換気量×1.4≦設計換気量	5.0	0.33	-	-	
2 自然換気性能		3.0	0.33	-	-	
3 取り入れ外気への配慮	空気取入口は汚染源のない方位かつ6m以上離れて設置	4.0	0.33	-	-	
4.3 運用管理		4.0	0.20	-	-	
1 CO_2の監視		3.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御	居室に隣接していない屋外喫煙ｽﾍﾟｰｽを設置	5.0	0.50	-	-	
Q2 サービス性能		–	0.30	-	-	3.8
1 機能性		3.2	0.40	-	-	3.2
1.1 機能性・使いやすさ		2.6	0.40	-	-	
1 広さ・収納性		1.0	0.33	-	-	
2 高度情報通信設備対応	OAｺﾝｾﾝﾄ容量40VA/㎡以上	4.0	0.33	-	-	
3 バリアフリー計画		3.0	0.33	-	-	
1.2 心理性・快適性		3.3	0.30	-	-	
1 広さ感・景観	事務所天井高＝2.7m以上	4.0	0.33	-	-	
2 リフレッシュスペース	執務ｽﾍﾟｰｽの1%以上のﾘﾌﾚｯｼｭｽﾍﾟｰｽの確保+自動販売機の設置	5.0	0.33	-	-	
3 内装計画		1.0	0.33	-	-	
1.3 維持管理		4.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計	壁や床に防汚性の高い建材を採用等	4.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保	清掃が容易な設計等	4.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性		4.2	0.30	-	-	4.2
2.1 耐震・免震・制震・制振		5.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)	耐震等級3	5.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能	免振装置を導入し建物全体の保護が図られている	5.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		3.9	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	金属ｻﾝﾄﾞｲｯﾁﾊﾟﾈﾙ(ﾌｯ素系塗装鋼板)30年以上	5.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	一般:亜鉛鉄板、多湿系統:塩ﾋﾞｺｰﾃｨﾝｸﾞ	4.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	主要な用途上位3種の2種以上にB以上を使用し、Eは不使用	5.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性		3.0	0.20	-	-	
1 空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備	省水便器採用、配管系統の区分、受水槽に蛇口設置	4.0	0.20	-	-	
3 電気設備		3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備		2.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性		4.2	0.30	-	-	4.2
3.1 空間のゆとり		5.0	0.30	-	-	
1 階高のゆとり	事務所・工場階高＝3.9m以上	5.0	0.60	-	-	
2 空間の形状・自由さ	壁長さ比率＜0.1	5.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり	工場積載荷重：4500N/㎡以上	5.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性		3.0	0.40	-	-	
1 空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境（敷地内）		–	0.39	-	-	2.7
1 生物環境の保全と創出		2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮		3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮		3.0	0.30	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-		-	3.9
LR1 エネルギー		–	0.40	-	-	4.3
1 建物外皮の熱負荷抑制	BPIm＝0.79	5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用		3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化	[BEI][BEIm] = 0.48	5.0	0.50	-	-	5.0
4 効率的運用		2.5	0.20	-	-	2.5
集合住宅以外の評価		2.5	1.00	-	-	
4.1 モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制		2.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価		-	-	-	-	
4.1 モニタリング		-	-	-	-	
4.2 運用管理体制		-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル		–	0.30	-	-	3.9
1 水資源保護		3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水	省水型便器、自動水栓、泡沫水栓、節水ｺﾏの採用	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減		4.2	0.60	-	-	4.2
2.1 材料使用量の削減	Fc=36かつSD390、490級鋼材、冷間成形角形鋼管の使用	4.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	電炉鋼材(大梁)	5.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	断熱材(ﾗﾝﾌﾟｽﾛｰﾌﾟ下)/ﾋﾞﾆﾙ床(管理室床等)/砕石(地業)/ﾎﾞｰﾄﾞ類(天井)	5.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	解体時に容易に分別可能な工法、再利用可能なﾕﾆｯﾄを採用	5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避		3.6	0.20	-	-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用	防水工事のﾌﾟﾗｲﾏｰ	4.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避		3.5	0.70	-	-	
1 消火剤		-	-	-	-	
2 発泡剤（断熱材等）	ODP＝0、GWP＝3	4.0	0.50	-	-	
3 冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境		–	0.30	-	-	3.6
1 地球温暖化への配慮	LCCO2＝75%	3.9	0.33	-	-	3.9
2 地域環境への配慮		3.6	0.33	-	-	3.6
2.1 大気汚染防止	ガス設備がなく大気汚染物質を全く発生しない	5.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制		3.5	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制	駐輪駐車場・荷捌き車両ｽﾍﾟｰｽの確保、複数出入口の確保	5.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮		3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	
1 騒音		3.0	0.50	-	-	
2 振動		-	-	-	-	
3 悪臭		3.0	0.50	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制		3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制			-	-		
3 日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制		4.4	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	ﾁｪｯｸﾘｽﾄ過半を満たす	5.0	0.70	-	-	
2 昼光の建物外壁による反射光（グレア）への対策		3.0	0.30	-	-	

CASBEE埼玉県　重点項目シート

■使用評価ソフトバージョン　CASBEE埼玉県2016年版

1　建物概要

建物名称	(仮称)DPL久喜宮代新築工事	BEE	2.1	BEEランク	★★★★

2　重点項目の評価

ライフサイクルCO2の削減のスコア		緑の保全・創出のスコア		
3.9	＋	2.6	＝	6.5

重点項目の各スコアーの合計点

がんばろう	良い	非常によい	すばらしい
6.0未満	6.0以上	6.8以上	8.0以上

3　重点項目についての環境配慮概要

（1）　ライフサイクルCO2の削減　　スコア平均　3.9

＜CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア＞

LR3　敷地外環境対策	1．地球温暖化への配慮	スコア	3.9

適切な駐車駐輪施設の確保や複数出入口の計画により周辺道路への渋滞緩和へ配慮

（2）　緑の保全・創出　　スコア平均　2.6

＜CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア＞

Q3　室外環境（敷地内）	1．生物環境の保全と創出	スコア	2.0
Q3　室外環境（敷地内）	3．2　敷地内温熱環境の向上	スコア	3.0
LR3　敷地外環境	2．2　温熱環境悪化の改善	スコア	3.0

・50%以上を示す規模の外構緑化を行っている
・緑地を確保し地表面温度や地表面近傍の気温上昇を抑制している
・敷地内の舗装面積を小さくするよう努めている
・建物の高さ、形状、建築物間の隣棟間隔等の工夫

：入力欄